

山行報告



■大台ヶ原(アルプ)

- 山 行 日：11月7日(金)～8日(土)
- 参 加 者：L尾越 SL砂川(延) コースL和田 竹内 三木(悦)

◆◆ 大杉谷溪谷

竹内

行動記録

11月7日(金)		
場 所	着	発
登山口	12:00	12:25
大日嶺	12:35	
休憩	13:15	13:25
京良谷	13:35	
千尋滝	14:20	14:25
シシ淵	15:10	15:30
平等嶺	16:05	
桃の木山の家(泊)	16:45	
11月8日(土)		
場 所	着	発
桃の木山の家		6:00
休憩小屋	6:25	6:30
崩壊地	7:20	
休憩	7:30	7:35
堂倉滝	8:35	8:50
休憩	9:50	9:55
栗谷小屋	10:15	10:40
シャクナゲ坂	11:20	11:25
シャクナゲ平	12:10	12:25
日出ヶ岳	13:15	13:30
大台ヶ原	14:15	

日本三大溪谷の一つの大杉谷に行ってきました。三重県から奈良県に向けて全行程16km、高低差1,273m。

7日朝、JR姫路駅で始発に乗車し、途中他のメンバーと合流して、鶴橋駅で近鉄に乗り換え松阪駅からJRで三瀬谷まで行き、そこからバスで12時過ぎに登山口に到着、長い道中でした。

登山道のはじめは、黒部の下の廊下を思わせる岩をくりぬいた崖を通り、水はエメラルドグリーンで、徐々に雄大な自然の中に溶け込んで行く感じがします。

登山道は所々、岩が濡れているので足元に気を配りながら鎖をつかみの歩行になりましたが、雄大な溪谷の中で疲れを忘れるほど迫力十分の滝や多くの

吊り橋が点在し、奥深い山の中の「桃の木山の家」に17時前に到着しました。楽しい会話と美味しい夕食、そしてアルコールを頂きゆっくりと睡眠をとりました。

翌日は6時に出発し堂倉滝を過ぎてからは、この山行の核心部に当たる長い急峻な登りが続きました。栗倉小屋では温かいコーヒーを飲み、ほっと一息つく。シャクナゲの自生地を通り1

3時過ぎに大台ヶ原日出ヶ岳に到着。この2日間で一番高い所360度パノラマで太平洋を望む素晴らしい景色のピークからゴール地点の大台ヶ原に到着しました。

この山行は天気恵まれメンバーに感謝し、シャクナゲの咲く時期にもう一度行って見たいと思いました。ありがとうございました。





■千ヶ峰 北播磨の秀峰に登る(女性委員会)

- 山 行 日：11月15日(土)
- 参 加 者：La 三木(悦) SLa 尾内 阿江 坂田(敬) 田中(美) 時井 平井(み) 森下
Lb 澤田(律) SLb 尾越 上川 田中(由) 苦瓜 平石 宮崎 村上



行 動 記 録

場 所	着	発
三谷登山口	9:00	9:15
雌滝	9:30	9:35
休憩	10:15	10:20
岩座神道出合	10:30	
千ヶ峰山頂	11:10	11:20
展望所(昼食)	12:00	12:30
市原峠	12:40	12:45
二本杉	13:00	13:05
市原登山口	13:45	13:50
林道終点・広場	14:10	

◆◆ 千ヶ峰

平井

寒っ！ 玄関を出て思わず声が出てしまった。でも、お天気はよさそうだね…良かった。

今日は女性委員会で千ヶ峰に登る。みなと観光のバスで三谷登山口にきました。ここから出発です。ゴロゴロの石を登り始めると、周囲の茜色、辛子色などの紅葉が大変に素晴らしい。

豊かな川面と滝が、様々な流れの表情を見せて楽しませてくれる。紅葉と滝に元気を貰って、登って行きます。朝日に照らされた美しい紅葉の山々に、皆さんが口々に「きれい！！」と…。

「山頂～市原峠辺りはこの時期、時雨れる場合があるから防寒の用意を」と、リーダーから前日親切なメールが届いていました。もちろん防寒の準備はOKでしたが、それでも震えながらおにぎりを頬張りました。

昼食後、長い下りを頑張って歩き市原登山口に到着です。登山口下広場で時井さんの指導でストレッチをしっかり済ませました。

その後、杉原紙研究所の見学をし、道の駅では女性らしい買い物を済ませて、皆さん元気に帰路に就きました。三木リーダーをはじめ皆様ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

■増位山～広峰神社～書写山



- 山 行 日：11月15日(土)
- 参 加 者：La 上田 SLa 北村 大谷 河合 香川
Lb 森本 SLb 山本(正) 木村 小山 嶋澤
- 行 動 記 録：JR野里駅 8:35 発～東尾根登山口(8:55 着)9:05 発～増位山(9:40 着)9:45 発～隋願寺(10:10 着)10:20 発～広峰神社(11:05 着)11:25 発～氷室池(12:03 着)13:00 発～書写山置塩口(13:25 着)13:25 発～円教寺摩尼殿(14:15 着)15:20 発～ロープウェイ山上駅(15:35 着)15:40 発～関バス停(16:20 着)16:25 発

◆◆ 官兵衛ゆかりの姫路の名刹へ

木村

秋晴れの下、JR野里駅に集合しました。住宅街を歩き増位山自然公園登山口でストレッチをしてから登り始めました。増位山展望台からは高御位山も見えました。そして33代姫路城主の榊原政那の墓所を見て随願寺へ。この辺りは梅林もあり、山道も整備され、墓所やお寺を見ながら散策をしている気分でした。随願寺からさらに進むと、28代姫路城主榊原忠次の墓所がありました。

墓碑には碑文がびっしりと刻まれており、政那の墓所よりもさらに立派なものでした。広峰神社は黒田家飛躍の地となったところです。広峰の御師たちは、官兵衛の祖父・重隆の作った目薬を御神符に添えて売り、黒田家は財を成したのです。広峰神社から近畿自然歩道を歩いていると、山中でマウンテンバイクに乗った青年？に出会いびっくりしました。この頃は走っている人もおり、色々な楽しみ方があるものです。そして氷室池で昼食をとり、夢前川沿いの道に出て、書写山置塩口まで車道を歩きました。



書写山への登山口は五ヶ所あるそうですが、私は置塩口から登るのは初めてでした。下まで降りていたのにまた山に登るのかと思うと、足も重く感じました。途中、置塩城のあった山も間近に見えました。そして、円教寺境内に入った途端、赤や黄色に紅葉したもみじが目に入り、疲れも飛んでしまいました。

摩尼殿をバックにみんなで集合写真を撮った後、境内を散策しましたが、至る所に紅葉したもみじの木々が見られ、この時期訪れることが出来て良かったです。今回高い山へ登りませんが、歩行距離が14km余りとかなり歩きました。紅葉を愛でながらの楽しい山行ができました。みなさんお世話になり、ありがとうございました。

■ 笛石山



- 山 行 日：11月16日(日)
- 参 加 者：L須増 SL野村 有本 石田 粕谷 田口(末) 田口(善) 田中(美) 長谷川(孝) 平井(正) 宮崎 山本(清)
- 行 動 記 録：松ノ木公園(9:30 着)ストレッチ後9:52 発～笛石山登山口 10:00 着～尾根道(10:50 着)10:55 発～猫石(11:15 着)11:30 発～笛石山(11:40 着) 11:45 発～ピーク950m(昼食12:10 着)12:40 発～笛石山(12:50 着)～笛石山登山口(13:55 着)～松ノ木公園(14:00 着)～エーガイヤちくさ入浴(14:30 着)15:20 発

◆◆ 「晩秋の宍粟の笛石山に登って」

粕谷

11月16日(日)、宝殿駅から乗用車2台で7時15分出発。秋晴れの中、順調な走りで姫路バイパス～R29～千種町「松ノ木公園駐車場」に到着。ストレッチをして10時前に出発、登山口で石仏の大菩薩に山行の無事を祈願し清流沿いを歩き始めた。

川を渡り急勾配の杉木立の中を登り眺望の開けた尾根道で小休憩を取る。杉の緑と紅葉のコントラストが見事でした。20分程で“猫石”に着き、皆で岩の上に登ったり、岩の下に回って



見上げたり・・・でも私は、“猫”には、見えませんでした。少しガッカリ！！。

10分程登って猫石山の山頂で記念撮影し、更に奥の後山方面へ30分位登り見晴しの良い所で昼食時間12時でした。少し長めの休憩時間を取り、眼下に千草の町を見て晩秋の少し冷たい風を感じ気持ちの良い一時を過ごしました。帰路は、来た道を戻り落葉を踏みしめながら下り、予定通り

14時に松ノ木公園に到着。ストレッチをして乗用車に乗り「エーガイヤちくさ」で入浴、汗を流しさっぱりして帰りは、道の駅で地元のリンゴと黒枝豆を買って17時30分に宝殿駅で解散。安全に運転してくれた石田さん、須増さんに感謝です。楽しい一日でした。

ありがとうございました。

■皆子山(京都の最高峰)



- 山 行 日: 11月23日(日)
- 参 加 者: La 尾内 SLa 長谷川(孝) SLa 村上 河合 清水 田中(重) 田中(由) 田羅間(易) 中村 峯山
Lb 西口 SLb 中嶋 SLb 苦瓜 青山 赤木 狩集 北口 田中(武) 田中(美) 藤本

行動記録

場 所	着	出
足尾谷登山口	9:55	10:05
林道終点	10:35	10:40
ツボクリ谷の出合	11:25	
休憩	11:35	11:40
栃の巨木 手前(昼食)	13:00	13:20
皆子山山頂	14:30	14:40
941mのピーク		15:00
平バス停	16:00	

◆◆京都の最高峰「皆子山」

北口

京都市左京区と大津市の境に位置する京都府最高峰971.5mの皆子山。

総勢20名。みなと観光のバスで足尾谷登山口に予定時刻を30分遅れて到着すると、昨今の大型台風や豪雨の影響で立ち入り禁止のテープが張られている。

バスの中でリーダーからも説明がありいつも以上に気を引き締めての出発となりました。

登山道の崩落、落石、橋の流失、根こそぎなぎ倒された大木が何本も川に横たわっている。こんな中、足尾谷からツボクリ谷へのコースは終始深く切れ込んだ溪流沿いです。ある筈の橋がことごとく流されているものですから、苔むした大きな岩に恐る恐るよじ登ったり、沢の流れの中の飛び石を頼りに向こう岸に飛び移るしか進むみちはありません。由って時たま「うわ〜」「ジャッボン」・・・と、残念な叫びも聞く事になりましたが大きな被害がなかったのは助け合いとチームワーク、そしてリーダーの判断の賜物です。

水辺と障壁のスリルと変化、その緊張を沢のせせらぎが癒してくれるというなんとも心地よい

体験でした。

ツボクリ谷を越え「トチの巨木」近くの分岐まで3時間、お昼休憩を取り早々出発すると今度は突如、急傾斜になり虎ロープにつかまって登る登る…。狭い谷を外れると今度は道のない急傾斜の自然林の中を手足を使ってまた登る登る…。一気に登りきると三等三角点と「皆子山」のプレートがあり、リーダーとハイタッチ\ (o^)/

難所を越えてたどりついた山頂はホントに爽快そのものでした。

下山、東尾根コースからは東方に比良山系、主峰の武奈ヶ岳や琵琶湖が美しく見え、だんだんと晩秋の夕方らしく空気が冷たくなっていくのを感じながらR367「鯖街道」の平バス停まで無事降りて来ました。

11月は雨で申込みしていた山行が2度中止になっていたこともあり3倍楽しめた山行となりました。リーダーさん、ご一緒して下さいました皆様ありがとうございました。



■たつの教育キャンプ場～大倉山(読図山行)

- 山行日: 11月24日(月・祝)
- 参加者: L和田
A班 支援S野村 田口(善) 田中(重)
B班 支援S澤田(律) 村上 田中(由)
C班 支援S三木(悦) 田中(美) 増田

行動記録

ポイント場所	A班		B班		C班	
	着	発	着	発	着	発
① キャンプ場	9:20		9:10		13:40	
② 水路分岐点	10:10		10:13		12:55	13:00
④ 峠	10:30		10:40			
⑦ 亀の池	10:50	11:20 (昼食)	11:06		11:55 (昼食)	12:20
⑨ 新池	11:50	11:55	11:42	12:19 (昼食)	11:15	
⑫ 大成池	12:40		12:39		10:45	10:55
⑮ 大倉山	13:15		13:22		10:15	
⑰ 峠池	13:40		13:50		9:30	9:35

◆◆ 読図山行(大倉山)に参加して

田中(善)

10月17日の読図山行説明会から始まり、今日は本番、緊張の朝を迎える。

9時たつの教育キャンプ場にマイカーに乗り合わせて集合。

和田リーダー、澤田(律)、野村、三木(悦)さん達が支援スタッフ。

まずはストレッチで体を解し、和田リーダーから説明がありA・B・Cの3班構成。

A班は、澤田スタッフ：田中(由)、村上、B班は、野村スタッフ：田口(善)、田中(重)、C班は、三木(悦)スタッフ：増田・田中(美)に分かれた。

9時20分A班、続いてB班が出発した。C班は逆コースなので和田リーダーの車で最終の⑰ポイントへ移動した。

私達はB班。スタートの登山口が左右の道に分かれている。右のコースに入りかけたところで野村スタッフからシルバコンパスで確認するよういきなりの忠告を受ける。



読図ポイントは17地点で、それぞれのポイント地点での標高、次に向かうポイントをシルバコンパスで確認する。山道と沢を地形図でチェック、橋の架かっている場所、尾根筋と谷筋など2人で確認しながら慎重に歩を進める。地形図では水流が記されて無いが谷筋から水が流れている沢、山道と沢の位置が逆になっていたり戸惑う事がしばしばである。野村スタッフのアドバイスを受けながら、やっと確認し難い②のポイントにたどり着いた。

次の③④地点の交差点で方向をチェックし、ここで先頭役を交替して⑤の峠、風土記にある水争いの地点⑥を確認し折り返しポイント⑦の亀の池に着いた。

この地点でA班は昼食タイム。私達は10分程の休息で先の⑧地点を目指した。スズメバチ注意の吊るし札、野鳥の巣箱など見ながら歩を進める。

⑧ポイント手前でC班と擦れ違い、ハイタッチで互いの健闘を祈り⑨ポイントを過ぎ新池到着。そこにはC班に新池まで同行の和田リーダーが待機。

青空の下、黄色が主体の紅葉が池の水面に・・・ここで昼食タイムを取ることにした。その間にA班が通過。いよいよ後半、新池から大成池を経て大倉山へ向かう。⑩⑪⑫ポイントは難なくクリア！

⑬ポイントまでが一番苦しい登坂。再び先頭役交替。⑬から⑭の道は背丈ほどのウラジロをかき分けながら進む。中間地点は鞍部になっている。⑭ポイント分岐で⑮への進路と下山路を確認後、目標の大倉山へ・・・。13時20分ポイント⑮の大倉山着。野村スタッフが写真撮影をして下さった。その大倉山を後に⑭地点まで戻り先程確認済の下山路へ。⑯ポイントで谷筋の出会いをチェック、最終ポイントのゴールへ谷筋の坂道を下る。この道沿いにドウダンツツジの真紅の紅葉が鮮やかで今日の緊張を癒してくれているようだ。そんな事を思っているうちに最終ポイント⑰の峠池に13時50分到着。

今後の山行では、何も考えずにリーダーの後を歩くのではなく、尾根筋・谷筋・沢・橋など目安になるものは出来るだけチェックし、地形図・シルバコンパスを駆使して歩きたいと思いました。和田リーダー、スタッフの方々には色々とお世話を頂き、ありがとうございました。



■武奈ヶ岳 アルペンムードあふれる比良の主峰

- 山 行 日：11月30日(日)
- 参 加 者：La 砂川(延) SLa 佐々木 赤木 石田 田中(重) 田中(美) 田中(由)
田羅間(勤) 西口 山本(清)
Lb 澤田(律) SLb 垣内 篠原 田羅間(易) 苦瓜 藤本 前川(克)
増田 村上

行動記録

場 所	着	発
坊村入山口(明王院)	9:50	10:05
夏道、冬道分岐	11:45	11:50
御殿山300m手前 (昼食)	12:20	12:40
御殿山	12:55	13:00
ワサビ峠	13:05	
武奈ヶ岳	13:45	13:55
コヤマノ分岐	14:20	
金糞峠	15:35	15:45
青ガレ	16:20	
大山口	16:45	16:50
イン谷口	17:05	



◆◆ 武奈ヶ岳の風景

山本(清)

今回の山行は、歩行距離の長さや高い標高で、はたして完歩できるのだろうかや不安な日々を送っていた。「完歩するためには普段以上に体調を整えて臨まねば」と、気を付けていたにもかかわらず、一週間前から風邪をひいてしまったが、なんとか回復。間に合った。

坊村入山口から御殿山の昼食タイムまでの2時間程、急でぬかるんだ落ち葉の林道は寒い季節でも汗が流れた。夏だともっともっと苦しいだろうな。

冬支度を終え素颜になった樹々。麓からの強い風を受けて曲がってしまった根元の先からすくくと成長している樹々を見て厳しさに耐えて育ってきた逞しさを感じた。

何度か目にした「レスキューポイント」の標識には思わず背筋が伸びた。

1214m、武奈ヶ岳山頂は雪が混じっているほど冷たく強い風だったが、遠くに見える山並、素晴らしい風景に満足感で一杯だった。今頃は雪に覆われた静かな山にウサギが飛び跳ねているかも。

金糞峠までの下り道、歩行用に作られた溝を歩いているのだと思っていたが、ここは、登山者の通行でだんだん低くなったのだとリーダーに教えて頂き、少しずつ山のバランスを崩しているのだと思った。

青ガレでは、「えっ！こんな所を歩くの？」心で叫んだ。はじめの一步からの厳しい場面。少し歩けば土の道に出られるかもと慰めながら延々と。笑わなかった膝が笑い始めた新緑のころに家族を誘ってこんどは青ガレを上ってみたい。私がリーダーで (^ ^)

◆◆ 比良の主峰「武奈ヶ岳山行」に参加して

増田

11月30日晚秋の比良山系を目指して宝殿駅前を7時30分に出発、総勢19名。
天気予報は夕方から雨というも朝は快晴、琵琶湖西岸ということでバスに揺られて2時間20分。
登山コースはいろいろあるようだが、今回は坊村から、ストレッチの後10時5分出発。夏・冬分岐点を経て御殿山(1097m)までは、ほぼ登り一辺倒、上ったり下ったりしながら登る山が懐かしい気がした程だ。わさび峠を経て武奈ヶ岳(1214m)に到着したのが13時45分。
この武奈ヶ岳は琵琶湖西岸に連なる比良山地の最高峰である。その美しい山容、展望の良さから多くの岳人に愛されているとのこと。山名の由来は近くのコヤマノ岳(1181m)にブナ林があるように、昔は山頂からコヤマノ岳にかけてブナ林があったから名づけられたようだ。
帰路は金糞峠を経て青ガレと呼ばれる急斜面な上大きな岩や石がごろごろしている沢沿いを下る。金糞峠も変な名前だが、青ガレは登りも大変だが、下りは足が取られたり滑ったりで私の最大の苦手としているケースである。案の定、石にけつまずき滑って転倒する始末、これも経験。
17時5分には下山、近くの天然温泉に入浴後帰路へ。そのころから雨が降り始める。最近の天気予報はよく当たる、下山後で良かった。20時45分無事宝殿駅に到着。
今回の山行は昼食等の休憩時間を含めて約7時間、実質の歩行時間は約6時間、行き帰りに約5時間要するのが、日帰り山行としては少し長い感じでしたが、山自体は程よい感じで比良山系が兵庫県にあればなあと思った次第です。ありがとうございました。



■有馬三山(女性委員会)

- 山 行 日：12月6日(土)
- 参 加 者：La尾内 SLa 苦瓜 上川 狩集 田中(美) 田中(由) 田羅間(易)
Lb 待場 SLb 西口 平井(み) 平石 藤原 村上 森下



行 動 記 録

場 所	着	発
神鉄有馬温泉駅		9:00
広場 (ストレッチ)		9:25
妙見寺	9:40	9:45
落葉山		9:50
灰形山	10:20	10:30
湯槽谷山	11:15	11:40
湯槽谷峠		12:30
ロープウェイ有馬温泉駅	13:00	13:15

◆◆ 有馬三山

狩集

数日前から寒波が到来、山陰や四国地方ではかなりの積雪らしい。六甲山はどうかしらと心配していましたが、集合場所の有馬温泉には雪はなかった。一安心。

少し街中を歩き、登山口へ。妙見寺へ続く舗装された道をしばらく行くと本堂に到着。無事に行けますようにと祈って、寺を後にする。寺からは山道になって、山行らしくなってきた。

ほんの少し歩いたところで、落葉山に到着。もう早や1つクリアした。うれしいな。でも後の2つは簡単ではなかった。少し下ってから登りになり、崩れやすい岩肌が露出した細いやせ道に行く。陽のあたるところは霜柱が溶けて滑りやすいので景色をみる余裕はない。丸太で土留めされた階段を上りきると灰形山の頂上に着いた。目前に湯槽谷山がでんと構える。もう一度下ってから急な傾斜の丸太階段が延々と続く。霜柱は凍ったままで、松葉が絨毯のように階段を埋めている。もう少しもう少しと自分を励ましつつ、湯槽谷山の頂上に到着。三つ目クリア。



ここで昼食タイム。弱い陽ざしはあるが、風が冷たい。上着を着て、ラーメンで暖をとってほっとする。下りは歩きやすい道をしばらく行くと湯槽峠へ下りる細い道に入る。石や滑りやすい道が続く。途中から道らしき道はなくなり、谷に沿ってごろごろ石をよけて沢を渡ったり、荒れる前の道であろう所を行ったり、下ばかり見ていたので、突如前をみると大きな砂防堤が出現。これをいかにして越えるか問題だ。なんとか左岸の堤の端を登った。広々とした河原に出て、川を渡ったら良い道にでた。アドベンチャー気分を味わえた下りでした。

湯槽谷（ゆそうだに）と読んでいたが、湯槽谷（ゆふねたに）が正解だそうです。この谷の木を有馬温泉の湯桶に使用したとか、「おねね」の浸かった風呂桶も湯槽谷の木であったのでしょうか。歴史を感じます。

ロープウェイの駅でストレッチをして、解散となりました。アフター山行は金の湯あり、ショッピングありで、それぞれの楽しみで過ごし充実した1日でした。有馬三山は行ってみたいところなので念願が叶いました。空気は澄み、白い雲がぼっかり、寒いけどこの季節の山も好きです。計画して下さったリーダー、ご一緒の仲間達ありがとうございました。

■雪彦山(アルプ)



- 山行日：12月6日(土)
- 参加者：L竹内 SL佐々木 尾越 三木(悦) 和田
- 行動記録：登山口 11:05 発～展望岩(11:27 着) 11:30 発～出雲岩(12:05 着)
～大天井岳(12:45 着) 13:10 発～地藏岳分岐(14:35 着)～虹ヶ滝
(15:05 着)～峰山分岐(15:15 着) 15:20 発～大曲～登山口(15:52 着)

◆◆ 雪彦山山行に参加して

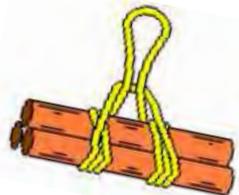
高橋

この冬一番の寒波到来といわれる中の山行でしたが、青空も見られお天気はまずまずでした。時折、小雪がちらちらしているのが見えましたが、登り始めから急登ですぐに体が温まりました。大天井岳山頂までは、鎖場、ロープ場が数か所あります。鎖、ロープを使わずに、スムーズに行かれる皆さんを真似ようとしますが、見るのとやるのは大違いで自分がやってみると

簡単ではなく、よいトレーニングになりました。また、地蔵岳の眺めが良い展望岩や、隙間を通ることが出来るセリ岩など見所が多く、楽しみながら登れました。

山頂は展望が開け、周囲の山々が見渡せます。参加された方にお聞きしたのですが、雪彦山や明神山でも、熊が出没するそうです！こんな身近な所でと驚かされました。

お昼休憩を終え、下山開始。すぐに分岐があり下山道を行くと鎖場です。リーダーがロープを出して下さり、**プルージック**で確保しながら下りることになりました。私は、シュリングセットを持参しておらず(本当にすみませんでした。)皆さんにお借りし、確保の仕方も改めて教えて頂きました。鎖場は滑りやすく、万が一のことが頭に浮かび、足を運ぶのに躊躇しました。



大きな岩場を過ぎると、ロープ場が数か所、小さな滝、地蔵岳の展望、谷の渡渉と変化に富んだ面白い山だと実感しながら下山しました。

今回、私にとっては久しぶりの山行でしたが、とても充実したものになりました。安定した山歩きのトレーニングに、また訪れたいと思います。

大変お世話になりました参加者の皆さん、ありがとうございました。

プルージックの結び方

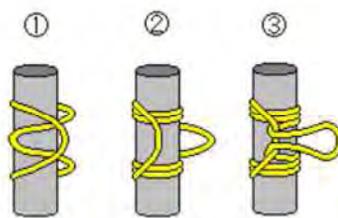
* プルージック結びは、太いロープや物体に細いロープを結びつける方法で、この結び目は細いロープをゆるめる時は自由に移動し、細いロープを張れば、結び目がしまって移動しなくなる結び方です。

* 用途

- ①薪を結えて運ぶ。 ②木やポールに小物を吊るす。
- ③クライミングで登高器の代わりにする。
- ④クライミングで自己脱出に使用する。

* 結び方

- ①輪になったロープを巻きつける。
- ②その輪にロープの端を通して2～3回巻きつける。
- ③もう一度、輪に通し、引っ張ると完成



播磨地区で「山での応急手当」講習会を開きます

期日：2015年2月14日(土)

時間：13:00～16:00

場所：東播磨生活創造センター「かこむ」講座研修室(収容人員90名)

(かこむは駐車時間制限3時間のため、出来るだけ電車を利用してください)